

SINAPIS



社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

月刊シナピスニュースレター

Vol.
71

2022.4

年間テーマ ～ 互いに耳を傾けよう ～



地上でもっとも小さいといわれている種子、
それがシナピス(からし種)です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、
互いに尊重し合い、
受け合うように願って平和の種をまき、
やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると
約束しました。

カトリック大阪大司教区
社会活動センター・シナピス

TEL/06-6942-1784 FAX/06-6920-2203

Email/sinapis@osaka.catholic.jp

ホームページ/<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

今月のテーマ

戦争アカン！

写真の説明：宮城県大河原町
一目千本桜と遠くに蔵王連峰
(2018年撮影)

提供：宮城県角田市在住



平和への道

ステラ・マリス（船員司牧）担当
エリック・デ・グスマン

主イエスが復活なさった日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸を閉めていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。（ヨハネ 20 章 19 節参照）

復活されたイエスの最初のご挨拶はなぜ平和の挨拶だったのでしょうか。三日前に、自分たちの先生が苦しみを受け、十字架上でいのちをささげて、亡くなられたことは、残された弟子たちにとって、悲しくて大きな衝撃でした。三年間、ともにいてくださった先生が急にいなくなり、しかも、このような残酷なかたちで自分たちのもとから取り去られたのは大きなショックでした。救い主だと期待していた先生のいのちがもう無かったので、これからどうすれば良いかと、皆が戸惑っていたに違いありません。また、自分の先生がこのように多くの人々に憎まれて、死に至らしめられたので、もしかして自分たちも同じひどい目に合わないだろうかときっと心配していたでしょう。

このような複雑な思いを抱えている弟子たちの心を、復活されたイエスはすぐに慰め、平安を与えたかったので、最初の挨拶は平和を願うものだったのだと思います。ご自分の受難と死が弟子たちにもたらした悲しみと不安を取り除き、イエスは復活の喜びと希望の保証を皆の前にお示しになりました。

新型コロナウイルス感染症が拡大し、しかも、ロシアとウクライナの間の紛争の中、多くの人々は心の悩みを抱えています。自分の生活にいつまで様々な制限がかかっているかがわからないとき、あるいは、自分の身の安全が保証できないときは、弟子たちのように心が不安に包まれます。不安の後に、必ず救いと慰めがあると主イエスの復活は約束しています。主を信じているわたしたちたちも、すべてのいのちを大切にし、お互いに耳を傾け、立場をよく理解し合うことで、この約束の実現をもたらし、皆が平和の道を歩むようにと願って参りたいと思います。



今月のページ

ニュースレター 目次

- 1 巻頭言
- 2 子どもたちに伝えたい平和
- 3 NEW ちょっと聞いて
- 4 カジノ建設 住民投票をしよう
- 5 障がい者委員会より
- 7 時報4月号より
- 9 助けてください
- 11 祈りの集い
- 12 仮放免の若者、人生の節目を迎える
- 13 ホームだより
- 15 ガリラヤの風
- 17 写真展のご紹介
- 18 みんなのけいじばん
- 21 工房だより
- 23 あとがき

チラシ・ご案内

- ・シナピスの風
- ・4月の祈り
- ・忘れないあきらめないカレンダー
- ・学びと祈りの集い
- ・とめよう！戦争への道 めざそう！
アジアの平和 2022 春関西のつどい
- ・写真展
- ・「アジアから問われる日本の戦争展」
- ・リンさん署名日本語とベトナム語
- ・311 受入全国協議会「〈3.11〉から
12 年目を迎えて」

年間テーマ

～互いに耳を傾けよう～

これは教皇フランシスコが数々のメッセージの中で、私たちに何度も呼びかけていることばです。身近なことから世界に至るまで、互いを思いやれないことで生じる衝突が後を絶ちません。この言葉を受け、交わりを通して互いを理解し尊重しあえる平和の実現を目指します。このニュースが皆さまと一っしょに考え、わかちあいの場となることを願っています。

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。

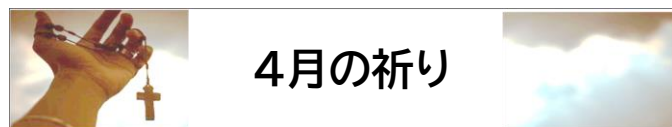
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピス年間テーマ ～互いに耳を傾けよう～

シナピスの風

* 行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。

第 147 号 2022 年 4 月 3 日発行



4月の祈り

「この虐殺を止めてください」と、ローマの聖ペトロ広場に集っていた人びとや戦争犠牲者の状況を見て全世界で痛みと憤りを感じている人びととともに教皇フランシスコは叫びました。天の父よ、あなたのこどもたちが苦しんでいます。あなたのこどもたちが苦しみを負わされています。平和を求めるわたしたちの祈りを聞いてください。そして、私たちに平和を築き上げるために今できることを実行する勇気を与えてください。母マリアよ、戦争によって苦しんでいる兄弟姉妹を温かく見守ってください。アーメン。

シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターとともにお送りしております。教会で、ご家庭で、日々のお祈りにお使いください。シナピスのホームページからも、ダウンロードしていただけます。

シナピス工房 だより

御復活おめでとうございます。

ベールやイースターグッズを多くの方に届けることが出来ました。難民移住者支援にご協力をくださりありがとうございました。コロナ禍で洗礼式や初聖体の日取りを思うように決められないと聞いています。シナピス工房では常時ベールやロザリオなどを手作りしています。ご入用の際はいつでもお気軽にご連絡ください。



赤ちゃんケープ
(首回り28cm)
¥2300



洗礼式、初聖体のプレゼントにベールはいかがですか？セットでケースも準備しています♪

柔らかいレースベール
無地と水玉、2サイズ展開
¥1800～¥2500 ↑

＝ボランティア大募集中！＝

ミシンで縫物をしてくださる方を募集しています。シナピス工房の作品作りをお手伝いしてください。自宅での作業も大歓迎です。ご興味がある方はシナピスまでご連絡をお願いします。

続けよう！！

拡散希望

ハガキ & FAX & 署名

「神から与えられた命を守りたい」

◆ただちに撤退を！！

ウクライナ情勢の平和的解決を！

世界を巻き込む戦争の危機

日ごとに緊迫しているウクライナ情勢に関する意見表明を

◆日本社会の谷間に埋もれた、

たった一人の女性の危機

熊本在住のベトナム人技能実習生レー・ティ・トウイ・リンさんの自宅での出産と逮捕をめぐる署名

継続中 ▼

◆ミャンマークーデター 1 年が過ぎました。

いまだ混乱が続くミャンマーでは、人びとのいのちが脅かされ続けています。わたしたちにできる働きかけを続けます。

◆アフガニスタン情勢

日本政府にアフガニスタンの難民を市民として受け入れ、また日本在住の在留資格のないアフガニスタン出身者を本国に帰さないよう訴え、ともに祈りましょう。

シナピス工房では 5 月 8 日(日)の母の日に向けて新しい作品を作りました。コロナ禍で会えなかったり、普段は家族と話す時間が取れない方も多いと思います。この機会に移住者が手作りしたカーネーションカードで思いを伝えてみるのはいかがですか。メッセージカードと一緒に贈るプレゼントも準備しました。水仕事をするときに便利なりバーシブルミニリストカバー、鍋つかみ、黄麻と呼ばれる麻の一種ジュートで編まれた食器洗いたわし。詳しくはカタログをご覧ください。

カーネーションカード



リボンがついた表紙を開けると
赤とピンクのカーネーションが飛び出します！

鍋つかみ ¥500(2つ)



取っ手にフィットして
握みやすいです (^_^)



ミニリバーシブルリストカバー ¥700(2枚1組)



リバーシブル ♪

カタログ Vol.3

(注文書付) あります
シナピス HP
から→



4/7 今月は第 1 週目に変更しました

シナピス祈りの集い

～世界の平和のために祈る～
毎月第 2 木曜日 時間: 20:30～(30 分)

十字架の道行き

司式: 松浦謙神父
開催方法: Zoom
(100 名まで参加可能です)

参加用 ID & パスコード、QR コード ↑
ミーティング ID: 761 071 2034
パスコード: 123456

カリタスジャパン

ウクライナ危機人道支援 受付開始

「ウクライナ危機人道支援」緊急募金の
受付を開始しました。

カリタスジャパンは、ウクライナの状況と、ウクライナにおけるカリタスの活動を考慮し、〈ウクライナ危機人道支援〉緊急募金の受付を決定しました。お寄せいただいた募金は、ウクライナとその周辺国で行われる人道支援活動のために活用させていただきます。

募金受付口座は次のとおりです：

郵便振替：00170-5-95979

加入者名：宗教法人カトリック中央協議会
カリタスジャパン

* 記入欄に「ウクライナ危機支援」と明記してください。

問い合わせ：03-5632-4439

食糧支援のお願い

感謝

コロナ禍で解雇された技能実習生、帰国できずに困っている短期滞在者が増えています。日持ちのする食品、ハラル食品、不織布マスク、体温計などのご支援をお願いします。



☆シナピス工房メール会員募集中！☆

最新のカタログが出来次第お送りいたします。

登録希望のメールアドレスから
下記メールアドレスへ連絡もしくは
右側の QR コードからご登録ください。

メールアドレス: sinapis@osaka.catholic.jp



カトリック大阪大司教区 社会活動センター シナピス

Tel 06-6942-1784 Fax 06-6920-2203

URL: <https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

「点訳版」「音訳」
ご希望の方はシナピスまで
お申込み下さい。

子どもたちに 伝えたい平和



「私は死なない」と言った友人

善きサマリア人修道会

景山ひろ

私が学生の頃、日本は戦時下でした。大人たちからは米兵がやって来たら捕虜になる前に切腹をして自ら命を絶つのが名誉だと教え込まれ、教えられたことと違うことを言うと家族まで危険にさらされる、そんな時代でした。しかしある時、心が揺さぶられる出来事がありました。工場での勤労奉仕中、友人たちといよいよ「ハラキリ」をしなくてはならないかと話していた時のことです。満州からの引揚者だった一人が「私は死なないわ。カトリックだから自分を殺すことはできないの」というのです。何を言っているのかわからない私たちは驚いて「あなた国賊なの？捕まるわよ!」と口々に言いました。友人はそれでも動じず「いいの、捕まったら逃げるわ」と言いました。この友人の発言は後々まで強く心に残りました。でもこどもの頃に植え付けられた教えを覆すのはとても難しく、私はこの後カトリックの洗礼を受けた時に「自殺はいけない」と教えられましたが、なぜいけないのかがよくわからず、自分なりの答えを出すまでに随分長い時間がかかりました。

戦争の何がいけないのかを考える時、次の三つが浮かびます。人を殺したらいけないということがわからなくなってしまうこと、誤報が飛び交い、それがいつのまにか本当のこのように洗脳されてしまうこと、そして自由な言論が統制され真偽善悪がわからないままこどもたちが大人になってしまうことです。これらは、命をおろそかにするばかりでなく、人間としての感じ方に間違いを起こしてしまうところに怖さがあります。たとえば、日本が朝鮮半島をはじめとするアジアの人々を苦しめたことに対し、条約やお金で「終わった」、「謝った」という人びとがいますが、そんなはずはありません。建物は破壊しても修復ができる、でも人の命は失われてしまったら取り戻すことができません。魂を犯し、傷つけた罪は、償っても償っても償い切ることなどできないのです。苦しめられた人びとの心は、苦しめてしまった人が、謙虚で温かい気持ち、「愛」をもって心から尽くすことでしか慰められないのではないのでしょうか。でも、幼い頃に偏見や差別をすり込まれてしまうとそこがわからなくなり、正すのには長い時間がかかります。

私は戦争の結果を背負って生きてきました。生きる中で背負ってきたものの何が正しくまた正しくないかがわかってきましたが、どれだけの時間がかかったのでしょうか。戦争の経験者は真実を話して物語をつなげていかなくはなりません。今も世界では紛争がたえず、難民が日本にも来ています。こどもたちに難民のことをきちんと教え、冷たい視線ではなく温かい愛の言葉がかけられるようになってほしいと思います。

(聞き手：川本綾)



今月から、教会共同体のみな
さまのさまざまな取り組みをご
紹介いたします。
「ちょっと聞いて」「聞かせて」
そんなふれあいの場になったら
いいと思います。

一握りのお米運動

大東教会 社会活動委員会

松村邦枝

コロナ禍に突入した2年前の2019年、東日本大震災9年目を迎えて大阪北地区社会活動委員会では福島ボランティアツアーの今後の新たな方向性を見直す意味で、カリタス南相馬前所長のSr. 島中ちあきさんを大阪に招いて現状報告、これからの支援、新しく出てきている問題提起などをお伺いする企画を整えました。開催目前となり、残念ながらコロナ禍による自粛にて開催を断念する事になりました。その折に一人の社活委員の方から「個人的にお米を寄付して頂けないかな？コロナで働く場所を失ったベトナム技能実習生達が困っているらしいので」とのお声掛けを頂きました。お聞きすれば大阪にある女子修道会のベトナム人シスターからの依頼であり、シスターがその実習生達の相談にのっておられお世話されている様子でした。大阪でコロナ禍によるベトナム実習生の為のお米の寄付を求めている、それも委員の方の個人的な知り合いと聞き、コロナで困っている方がお近くに居られるのなら小教区に援助を求める事は神様が与えて下さったお仕事かもしれないと感じ、個人的な事ではあるけれど勇気をだして小教区にお願いしてみました。「多くの寄付ではありません、御自宅でお米を研ぐその時にベトナム技能実習生の事を思い出してください。帰国もできず働けず、一つの場所に大勢で米とお肉を分け合って空腹を満たし帰国できる日を待ち、仕事ができる時を願って居られます。ほんの一握りで良いですので教会にもってきてください」と呼びかけました。

小教区でこの呼びかけに答えて頂きここ2年間、集まったお米を修道院に届けています。当時の実習生達は帰国もでき、無事に仕事も始まった方々も居られ嬉しい事です。在日ベトナム人達の多々ある問題をシスター達は抱えながら、今はそのお米を必要な方々に分け与えて下さっている様子を。私達はこの小さな一握りの

お米運動を続け、これからもあの時の実習生の方々の様に、困って居られる方々の為にお米の分かち合いを続けていきます。ほんの少しのお米でも大きな喜びをもたらして下さる神様に感謝しています。なおシスターと友好関係も結ばれる恵みも頂き、お互い顔も知らずお電話とメールで連絡や相談をしてきましたがコロナ禍が収まっていつかお目にかかり談話できる事を楽しみにしています。小教区の兄弟姉妹も一握りから一袋、果ては収穫したお米じつさり持ってくださる様にもなってきました。教会周辺の地域で何か困ったときはこのお米で炊き出しや寄付をさせて頂ける様になると思います。一握りのお米運動これからもコツコツ続けていきたいです。感謝♥



え？ちょっと待った！！



カジノ建設

住民投票をやりよう！！

3月24日の大阪市議会で
「カジノ建設計画案」が
可決されました。

ギャンブル依存の大阪になってしまっていて本当にいいの？
まだ間にあう！目を覚まし、耳を研ぎ澄ませて、しっかり考えよう

大阪府にお住まいのみなさん、
今始まっている「住民投票をやりよう！！」の運動を広めませんか！
15万筆集めて「カジノ建設、イエスカノーかの住民投票をする」
という条例を作ってくださいと、議会に請願しましょうよ。



賭け事遊びはいけません、と家でも
学校でも言われるけどどういうこと？
賭博は処罰の対象になるのに、
カジノはいいの？
合法的に堂々で行われ、そこから吸い
上げられる税金で大阪が潤う？大阪自
体がギャンブルに依存する社会になっ
てしまうということでしょうか？



ちょっと待って？！
カジノ建設に1750億円もの税金がじゃ
ぶじゃぶ使い込まれているとか、ちゃ
んと中身を聞かされていないよ。府市全体
がカジノに依存するような大阪に
なってしまってもいいの？



エーッつ ギャンブルに依存する社会
で、ぼくたち生活していかなあかんの？

「カジノで儲ける大阪」って
住民として自慢できへんわ



どうしたらいいの！！

呼びかけ人のおひとりの森田敏一さんは

「これはイデオロギーの問題ではなく、
私たちの生活の問題、心の問題」です。



自分の意見を示す絶好のチャンス！

府市に住民投票をしてくれと「直接請求」をしよう！！

この「直接請求」とは、有権者の50分の1、15万筆の署名を集め住民投票のための条例制定を求めたら、府知事は議会を招集し話し合ってもらわなければならないとするしくみです！賛成したい人、反対したい人、府市民の皆さん、民主主義の良いしくみを使いましょう。カジノの是非を問う住民投票実現に向けた署名運動が始まります。皆さん、直接イエスカノーを問う住民投票を実現させましょう！

そうです、カジノができれば、
65年間実害を被る可能性があるのです。
私たちの世代が造ってしまったカジノを
こどもや孫たちがやめたいと思っても、
もうやめさせることができないのです。

- ① 署名としては有効ではありませんが、外国籍住民や未成年者の署名も受けつけます。
その無効票の数を公表することで、すべての住民の関心の高さを訴えられるからです。
- ② 条例を作ることになれば、その条例で外国籍住民も投票できるように働きかけます。
- ③ 大人も子どもも外国籍の人、みんなが暮らしやすい大阪を自分たちでつくろう！！

まずは話を聴きませんか？
オンラインなどを利用してグループでも、
家族でも。呼びかけ人にお繋ぎします。



シナピスまで

署名集めは3月25日～5月25日の予定

「性的マイノリティーを共同幻想論とレビ記で考える」

教区障がい者委員
住吉教会 吉川康夫

○人間が考える正義と神が考える正義は異なる。

昨年の正義と平和全国集会(大阪大会)に情報保障のため、実行委員会に参加した。第 1 回実行委員会で、耳にした言葉だ。「人間が考える正義と神が考える正義は異なる」

コロナ禍において感染拡大を防ぐために、様々な自由が奪われていく。外国ではロックダウンという強権が発動された。日本ではお願いという形ではあるが、「自主隔離」という名の事実上の監禁も余儀なくされた。

さて、レビ記を見ると様々な不浄のもの、汚れたものへの掟が記されている。当時の公衆衛生観から行けば、当然のことかもしれない。集団を守るためには、当時とすれば仕方の無いことかもしれない。町・村の外に追い出され、重い皮膚病患者たちは、「私は汚れています」と、言わなければならなかった。しかし、それは重い皮膚病患者たちだけに留まらず、病者も障害者もそして女性もが現代まで長く苦しめてきた。

また若い頃、吉本隆明の「共同幻想論」を読んだ。日本の民話などの文献から、共同体が作られ守りつづける過程でタブーという掟が作られる。北山修先生の「日本人の原罪」でも、古事記や民話に「汚れ」と「禊ぎ」の思想が記されている。

○時代とともに、常識は変化する

発達障害研究をする中で、大学の先生に教えを請うた。師から、「何が正しいか、と考える時代ではない。いろんな考えがある。それぞれを認め合ったうえで、自分に一番合ったものを見つけることが大切だ」と、聞いた。違いを受け入れられない狭さで、人間の考える正義を振りかざしてはいけなさと再認識した。

○誰も排除しない

“誰も排除しない”とは、そういう意味もあるのではないか。常識は、時代とともに変わる。日本で「らい予防法」が廃止されたのは、1996 年のことだ。わずか、26 年前のことだ。それまでは、イエスの時代のようにハンセン氏病患者は隔離されてきた。

○女性の復権は、少しは前進した。しかし、まだまだ女性差別と偏見はつづく。少子化に伴う労働力不足、それを補うための女性進出と外国人労働者の増加。一方、国会議員に占める女性議員の数は、先進国では日本は最低ラインだ。企業でもセクハラは、一向に減らないと聞く。

◎遺伝子は、生き残るために変化しつづける。

まだ詳しいことは明らかになっていないが、コロナウイルスはコウモリが持っているウイルスから変化したものだと聞く。そして、ベータ株、デルタ株と変化してきた。原稿を書いている今、オミクロン株が大流行している。毒性は弱い、感染力はずば抜けて強い。コロナウイルスが生き残るための戦略だ。一方人類は、どうか？

○草食系男子が増え、肉食系女子が増えている。

結婚しない若い人が増えている。結婚しても子どもを持たない夫婦が増えている。

そして、先号のシナピス誌で石井師が紹介されていた「ジェンダー・サイエンス」

遺伝子レベルで男女の差がなくなりつつある。これは、人類の危機なのか。それとも、人類が生き残るための自然の働きなのか。コペルニクス的転換が求められている。いや、天動説から地動説に転換した時よりも大きな転換がせまられている。違いを受け入れず、相手に悪のレッテルを貼ってしまうパリサイ人にならように気をつけたい。いずれにしても、『誰も排除しない』は、言葉だけではだめだ。私たちが望む転換ではなく、父なる神が望む転換が実現しますように私たちは、動こう。

聴覚障がい者と情報保障

要約筆記グループ“エッフアタ！” 新田良子



このタイトルを見て、読もうと思ってくださった方、ありがとうございます。

「硬いですよね。なんじゃそれ」と思いますよね。

ではまずタイトルについて。

「**聴覚障がい者**」って誰のことでしょう。①**ろう者**：言葉を獲得する前から聴力

に障がいがあり、手話を母語として育った方です。幼少期から聴覚障がい者だった

方で言語障がいを併せ持つ場合は、ろうあ者とも言います。②**中途失聴者**：思春期以降もしくは成人してから失聴した人です。筆談や要約筆記が有効な場合が多いです。③**難聴者**：補聴器の使用

によって音声言語の識別がある程度まで可能で、音声言語を通常のコミュニケーション手段としている人です。（出典：要約筆記者養成テキスト上）

次に、「**情報保障**」とは、身体的な障がいにより情報を収集することができない者に対し、代替手段を用いて情報を提供することです。特に聴覚障がい者は、音声によって提供される情報や会話を理解できないため、日常的に情報から疎外されているといえます。そのため、一般的に「情報保障」とは、聴覚障がい者に対するコミュニケーション支援を指して用いられます。

（出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）

それでは、視覚による代替手段にはどんなものがあるでしょう。**手話、要約筆記、音声認識、筆談、字幕**など。私たち“エッフアタ！”が担当しているのは、要約筆記です。それでは、要約筆記とは？ 話されている内容を要約し、文字として伝えることをいいます。あくまで聴覚障がい者のために「発話時点で要約し、通訳すること」を保障するのであって、音声の記録行為とは異なります。

大阪教区では、かなり前から要約筆記を実施されていました。私自身、要約筆記を初めて見たのは、玉造のカテドラルでした。文字がどんどん上がっていくのを見て、「すごい」って感動しました。その時の感動が忘れられず、いつか要約筆記をしてみたいと思っていました。でも、なかなか要約筆記者養成講座に参加することができず、60歳になってやっと講座に通うことができ、3年間勉強して、要約筆記者の資格を取得することができました。それで、「何かお手伝いできることはありませんか？」とお声がけしたところ、以前から取り組まれていた障がい者委員会の石井神父と吉川さん、大阪市主催の養成講座を受講された安見さんと一緒に、グループが立ち上がりました。今は、若いメンバーや正義と平和協議会大阪大会での要約筆記のことで関わって下ったシスターも加わってくださり、教区ミサでの要約筆記を任されています。

わたし自身は、自分の小教区（和泉）の毎週のミサの要約筆記もさせてもらっています。文字があることで、祈りを覚えない人が出てくるとか、スクリーン（ホワイトボード）で侍者が見えなくなるとか、いろいろ言われますが、耳が聞こえづらい高齢者の方々には喜ばれています。

今年から、要約筆記グループ“エッフアタ！”の練習会が定期的に行われることになりました。5月からです。毎月第2水曜日13時～15時、教区本部事務局で行います。参加費は無料です。パソコンを打つのが得意な方、得意でない方も一度のぞきにきてください。



耳マークです。
聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマークです。

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、
その悩みを少しでも分かち合うことのできる、
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」
増補新版より



教誨師のささやき

教誨師を続ける中で出会った少年

箕面教会主任 矢野 吉久



その少年は私を睨みつけるようにして座っていました。そして全身で怒っていました。数年前の少年鑑別所の面接室でのことです。彼が落ち着くのを待って、なぜカトリックの教誨師を呼んだのかと尋ねたら、彼は生い立ちから話し出しました。生まれた時にすでに父は不在、母のもとで一応育てられたが、その母は育児放棄、近所の人が見かねて世話をしてくれたそうです。ガスも電気もよく止められ水道までも。学校もロクに行けず、中学生くらいから暴力団に出入りし使いパシリをしていました。犯罪に手を染め逮捕され鑑別所に。そこで宗教教誨を受けられると聞き、幼い頃のことを思い出したそうです。家の近所にカトリックの教会があって、その庭でよく遊んでいて、そんな時神父さんがとてもやさしく親切にいつも声をかけてくれたことを。それで宗教教誨を受けられるのであれば「カトリックを」と希望したのです。私はその教会と神父（故人）をよく知っています。あの神父さんならそうだろうと。

その後、少年は少年院に送られました。大阪からとても遠い所にあります。もう会うこともないと思っていたら手紙が届き、会いたいと。

私は毎月面会に行くことになりました。会うたびに彼は明るく穏やかな表情になってゆきました。少年院の規則正しい生活、厳しいが愛のある教官たちの教育。そして何よりも食事による影響が大きいと思います。少年院の食事は質素です。インスタントのものは出ません。カロリー計算し調理したもの、必ず煮炊きした食事が供されます。飲み物も麦茶のみ。彼は捕まるまでお手軽なファーストフードやコンビニで売っているもので飢えをしのいでいました。少年院で食事らしい食事をする様になり心身ともに落ち着いたのです。

ある時彼は「先生聖書を差し入れてくれ。読みたい」と言ったのです。早速、『新・旧、続編付き』を差し入れたら、彼はさっそく創世記から読み始めたのです。そしてエゼキエル書16章6節まで読んだ時「生きよ」というみ言葉に出会ったのです。「これは神サマが自分に言ってくれた」と思ったそうです。1315ページ！ここまでよく読んだものです。面会の時、彼は「先生、神サマは俺に生きよと言ってくれた」と大きな声で言いました。私は何も教えていません。教誨師として彼の話をただ聴いていただけです。私は驚きました。聖書を人に語ることをなりわいにしている者が聖書をはじめて読んだ少年に教えられたのです。少年に神サマの風が吹いた！吹き抜けていった！と。古い人を脱ぎ捨てて新しいのちに生きる人を目の当たりにしました。彼は少年院を出て今社会人です。そして私は教誨師として受刑者と対話を続けています。

「あなたがたは、あたかも自分が獄につながれている者のように、獄につながれている人々を思いやり、また、あなたがたは自分も肉体を持っているのですから、虐げられている人々を思いやりなさい」。

（ヘブライ13章3節フランシスコ会訳）



死刑廃止を願って



カトリック教会は2018年『カトリック教会のカテキズム』を変更し、「死刑は許容できず、人格の不可侵性と尊厳への攻撃」として明確に反対の態度を定めました。また前田万葉大司教も2019年3月2日のシンポジウム「死刑、いま命にどう向き合うか」において、根元となるのは「命の尊厳」であるとし、「例え国家であっても人を殺すことはできない。皆がそう理解できる社会になることを祈ります」と話しました。もう一つ、死刑制度の問題において見逃し得ないのは、「取り返しのつかない」ことです。1944年米国では14歳の黒人少年が、白人少女2人を殺害した罪で死刑判決を受け、電気椅子で刑が執行されました。担当白人弁護士は証人を召喚せず、反対尋問も行

われないまま、警察のわいせつ目的で殺害したとの主張にもとづき、わずか2時間の裁判と10時間の陪審員の評議で死刑判決が出されたのです。この判決は70年後に家族の度重なる再審請求を受け、証人喚問と弁論を行うなかで、死刑判決が破棄され少年の無実が確定しました。

教会における死刑反対と廃止に向けた取り組みは、日本の他の死刑廃止団体に大きな励ましとなっています。しかしながら2020年12月末、世界で144ヶ国（事実上も含む）が廃止され、多くの国の教会が教えを实践する必要がないのに対して、死刑制度の見直しに動く気配がない日本政府の姿勢に、日本の教会は呻吟せざるを得ません。死刑囚の処遇についても、確定死刑囚への聖体拝領が、ある拘置所で認められず、教誨師を介しての受洗希望も1年半放置されるなど、見逃すことができない状況にあります。何よりも神の恵みを必要とする人に、日本の国は信仰することを認めないのです。

そのためにも法務省の“秘密主義”に対し「知る権利」を行使し、死刑制度の状況把握に努める必要があります。また、被害者の応報感情への同情が強い日本社会において、聖母マリアへの取りつぎが求められます。自分の息子を裏切り、十字架刑に追いやった弟子たちを、聖母マリアは受け入れともに祈ったときに、聖霊降臨の神秘は起こり、教会が誕生しました。私はそのことを深く心に刻みたいと思います。

私が属する「キリスト者死刑廃止ネットワーク」では、毎月Zoomでの交流会を行い死刑問題について意見交換を行っています。ご希望の方はネットワーク事務局まで

（門真教会 小野幸治）

キリスト者 死刑廃止ネ ットワーク

キリスト者死刑廃止ネットワークは、イエズス会社会司牧センターの柳川朋毅さんと日本キリスト教団室町教会牧師浅野献一さんを共同世話人として、教派を超え、日本のキリスト者として、今一度、死刑制度についてより深く学びたいという方のために、ネットワークを立ち上げたものでメールにて交流してきました。しかしメールだけでは交流が深まらないため、昨年5月からは毎月第4火曜日に1時間、Zoomでの交流会を開催しています。交流会では参加者の活動報告や死刑に想うことなどをフリートークで行っており、誰もが参加できます。過去9回交流会を開催しており、交流会要旨も作成しています。閲覧希望の方はお知らせください。

事務局： tyanagawa@jesuitsocialcenter-tokyo.com（担当：柳川朋毅）

アムネスティ インターナシ ヨナル・日本



アムネスティは国際人権 NGO であり、設立初期から死刑廃止運動に取り組んできました。死刑廃止活動は東京と大阪の2チームに分かれており、大阪チームでは次の取り組みを行っています。①毎月死刑廃止入門セミナーの開催、②全国への情報発信として機関紙年2回発行、③公開講演会の開催、④署名活動等の取組み等です。詳細はここでは書き切れないので、興味がある方はホームページなどをご覧ください。

ホームページ： <https://www.amnesty.or.jp/>

募集 戦跡情報をお寄せください

お住まいの地域にある戦跡についての資料やマップなどがありましたら、シナピスまでお送りください。
平和旬間、戦争と平和について考えるための記事づくりにご協力をお願いいたします。
不明な点もシナピスまで

▶戦跡情報提供・問合せ

〒540-0004

大阪市中央区玉造2丁目24-22

社会活動センター シナピス宛

☎06-6942-1784 FAX：06-6920-2203

E-mail： sinapis@osaka.catholic.jp

◇アリさん一家◇

タリバンに殺害予告を受けたハザラ人のアリさんはパスポートを持っていた息子たちと先にイランへ退避していましたが、妻と残りのこどもたちもようやくパスポートを取得し、国境を越えることになりました。アリさんのお母さんは高齢のため、国境越えを断念しました。妻は生後6か月の赤ちゃんを含む4人を連れてアフガニスタンを脱出しました。



国境越えを待っていたお母さんと家族



3月10日にやっとアリさんはイランでこどもたち全員を抱きしめることができました。皆疲れ果てていたのでその日だけは無理をしてホテルを取って妻とこどもたちを休ませました。

アリさんのイラン滞在期限は4月2日と迫っています。「私はどうなってもいい。妻とこどもたちだけでも助けてください」というアリさんの願いに、私たちは日本政府にももう一度かけあって解決の糸口を探りましたが3月中旬にその道は完全に絶たれました。今、私たちは世界の教会関係者に連絡をして、救出してもらえようを探しています。欧米先進国のみならず、南米に縁のある人にも相談をしています。

「こどもたちが生きるように。ただそれだけ。私は望みを捨てない。」アリさんからのメッセージです。

◇Gさん親戚一家◇

日本に親戚のいるGさん親戚一家5名は2021年11月にイランまで逃げましたが、日本への家族呼び寄せは親か子、配偶者しか認められず呼び寄せることができませんでした。

この中の一人Zさんは若い時に強制結婚させられそうになったのを断った経緯があり、一族から虐待を受けてきた人でした。その後両親が亡くなると親戚に厄介者扱いされながら家を転々とする人生を歩んでいたのです。日本の親戚が呼び寄せを試みた中にZさんが含まれたのは彼女にとってとても大きな意味があったことでしょう。それだけに呼び寄せられなかった落胆はどれほどのものだったか、想像もできません。

3月になって、私たちはZさんがまだイランにいることを知りました。イラン滞在ビザはとうに切れてしまい、イランでも肩身の狭い思いで過ごしているのですが、Zさんにはもうアフガニスタンにも帰る場所がありません。心を痛めた日本のいとこたちだけがZさんを救おうとしています。イランでオーバーステイになったアフガニスタン女性を日本へ退避させることができるのかどうか、道を模索中です。

Zさんと一緒にイランまで逃げ延びたMさんは、日本行きがダメになったと聞いて、一人で別の国へ逃げることにしました。トルコを目指しましたが、トルコの警察に捕まってしまい、それきり消息が途絶えています。



◇シリア難民◇

3月25日、ある日本人からシナピスに電話がありました。その人は以前ユニセフに勤めていた時に知り合ったシリア人の友人を援助していました。

シリア人になら日本でも短期滞在のビザが出ますので、その日本人はビザ取得の手伝いをして友人のシリア人を日本へ呼び寄せようとしていました。しかし、寄港地のトルコで足止めされ、移民局から通行許可として、とても支払えない高額の賄賂を要求され、途方に暮れているということでした。

2011年3月にシリア危機が始まってから、丸11年。その間約568万人がシリアから周辺国に避難。

シリア国内では、今も約670万人が避難生活を送り、約1340万人が人道援助を必要としています。

※国連 UNHCR 協会 HP より

戦地から国境を越えて人が逃れるということの過酷さを知る毎日です。シリア難民の友人は言いました。「世界数千万人の難民があふれている、と聞いて気が遠くなります。私はそのうちのたった一人を助け出すためにお金をつぎ込んでいます。これでよいのだろうか、このお金を他の難民の人たちに使うべきだろうか、と迷います。でも私にとっては友人もまた等しく大切です。数千万人の人びとを思うとどうしたらよいかわからなくなります。」

「助けてください」から
「助け合う」へ

☆Rさん一家☆

Rさん一家はラマダン(断食:今年は4月1日~30日)を埼玉の家族と過ごした後、5月から大阪へ引っ越し、シナピスで活動を始めます。

Rさんは軍医として、夫は病院の経営者兼院長として、カブールで安定した暮らしを営んでいました。それが2021年8月に一転したのです。

シナピスではアフガニスタンで何が起こったのかを知る二人にしかできない活動を考えています。



3月1日、ホテル隔離を終えて
羽田空港に到着したRさん一家

日々のニュースではウクライナから難民を受け入れた学校や団体が報道されています。ウクライナの人びとと同様に、その他の国から戦禍を逃れてくる人や様々な理由からいのちを脅かされて避難してくる人びとのことを忘れることなく、私たちにできる同じいのちを守る行動を続けていきたいと思います。



3月の祈りの集い

◇ ウクライナの平和のために ◇



2月24日、ロシアがウクライナへ軍事侵攻を開始しました。その日から居ても立ってもいられないという方々から祈りたいという声がシナピスへ届きました。毎月の祈りの集いとは別に急遽「ウクライナの平和のための祈りの集い」を3月8日（火）に行いました。

カルロス・ムニージャ神父の司式で、スペイン語、英語、日本語の3か国語で行いました。200名以上の、海外や、日本は北海道から沖縄までの方がたと一緒にウクライナのため、戦争で苦しむ人びとのために祈りました。ウクライナの画像を見ながら「隣人とはだれなのか」「神は民の苦難、苦しみ叫びを知っている」「私たちは心、魂、力を尽くして神を愛さなければならぬ」という聖句を味わい、毒麦のたとえ話を聞いて黙想しました。

参加者の方からは「戦争を止めたいという同じ思いを持った多くの人と祈ることが出来て良かった」という言葉をいただきました。改めて、みんなで思いを一つにして祈る事の大切さを感じました。

◇ 世界平和のために ◇

シナピス主催第6回「祈りの集い～世界平和のために祈る～」を、イエズス会の光延一郎神父の司式で3月10日に行いました。



祈りの集いにメッセージをくださった陶芸家の池田さん
写真は福島県浪江町のご実家にて

今回は東日本大震災のために祈りを捧げました。震災から11年が経ち、日々のニュースで被災地の様子を見ることが少なくなってきました。けれど現地では今もなおずっと復興作業が続けられ、核廃棄物質の処理やそれに伴う土壌・水質汚染、住民や次世代の健康被害など、多くの問題や課題が残されたままです。11年前の震災とその後の被災地での現実が忘れ去られることがないように、被災者の方や東北にゆかりのある多くの方に参加を呼びかけそれぞれの思いを伝えて頂きました。

なかでも、共同祈願で唱えられた「未だ行方不明で見つかっていない人のため、そしてそのご家族の苦しみのため」の祈りでは、心を11年前にぐっと引き戻されたような感覚になりました。

東日本大震災は終わっていない、引き続き私たちが主体的に取り組んでいかなければならない社会問題であることを、参加者皆が実感した時間でした。

そしてまた先月3月16日、福島県沖で大きな地震が起きました。家屋の倒壊や断水、停電、火災など甚大な被害が出ています。被災者の方が復興への希望を失わないように願い、自分たちに出来ることを考え祈りつつ行動に移していきたいと思います。

仮放免の若者、人生の節目を迎える

私たちは、日本で生まれ育っているのに在留資格を与えられずにいることもたちに、在留資格を求める運動をずっと続けています。



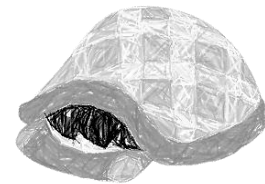
裁判所を後ろにし、NHK のインタビューに答えていた高校生のころのミユキさん

2016 年に夫がペルーへ強制送還されてしまったあと、

こどもたちの在留特別許可を求めて闘っているネリさんの娘のミユキさんは、20 歳になりました。

1 月の成人式が近づくと、ミユキさんの同級生たちは式典で着る着物やドレスの話題で大はしゃぎです。住民登録のないミユキさんには市から成人式の招待がくるはずもなく、ミユキさんは深い疎外感と孤独に身を持て余し、家で塞ぎこみがちになりました。ただ日本に生まれ育っただけの自分がなぜここまで存在を否定され続けるのか、その理不尽さにミユキさんは前を見ることができなくなったといいます。

成人式の当日はずっと眠っていました。お昼前に知り合いの大人から電話がありました。「なぜ成人式に行かないの」「招待されていませんから」「そんないいじゃない、気にしないで行ったら」ミユキさんはますます落ち込みました。招かれてもいない者がこのこ行って、受付で「あなたの席はありません」と言われろというのだろうか。ありえない。



ミユキさんは成人式の日心の痛みに無理矢理ふたをして日常生活を送っていました。ある日、教会で掃除をしていると、信者のおじさんが「ミユキちゃん、成人になったね。着物着たい？」と声をかけてくれました。ミユキさんは「はい」と答えました。



春休みに入った 3 月 22 日、ミユキさんの背景事情をよく知る信者さんたちが企画して、ささやかな成人のお祝いの会を開きました。着物を貸してあげるよ、と何人もの信者さんが家にある着物の写真をミユキさんに見せてくれて、ミユキさんは気に入ったオレンジ色の縞絞りの着物を選びました。

22 日当日は、写真を扱う仕事をするペルー人の青年が、ライトやスクリーンなど本格的な機材を運び込んでミユキさんの写真を何十枚も撮ってくれました。この日は大学に合格したミユキさんの弟のサトシさんのお祝いも兼ねており、喜びがいくつも重なりました。

お祝いの会には、ネリさん母子の裁判を担ってくださった弁護団長の空野弁護士、ネリさんの通訳として常にそばに控えるシスターマリアなど、ネリさん母子のことを知る人生の先輩たちが駆けつけてくれました。

ミユキさんは「この春、まさか本当に着物を着て祝っていただけると思ってもみなかった。着物を貸して下さってありがとうございました。写真もたくさん撮って頂いて嬉しかったです。今はとりあえず大学卒業を目標に頑張ります」と挨拶をしました。

自分の存在そのものを否定されるこの日本の地で、一日一日を歩む若者の声に私たちはどう応え行動するのか、一刻も早い解決を願わずにはいられないひとときでした。





シナピスホーム便り

皆さまお元気でお過ごしですか。春の訪れを感じる今日この頃です。
2か月ぶりにお便りいたします。

山田 直保子

3月2日(水)

掃除や準備をしているとあっという間に時間が過ぎますね。

今日も13時にカフェをオープンしました。

オープンと同時にたくさんのカップラーメンを携えてお初のお客さまがお越しくださいました。何度かお電話で話していた方で「山田さんでっか」、から始まってよく話し、よく笑う、楽しい方でした。話していくうちにとても信仰心が篤く、信徒として誇りを持っておられることがありありとわかりました。シナピスの事は、スタッフであるビスカルド篤子さんの時報の記事を見て、はっきりした物言いが感じ取られる文面が好きで、楽しみにしており、難民移住者の事を知り、できることがあるなら何かしたいと思って電話をくださったそうです。ひとりの難民さんから現状を聞いて、「わしがこの人の立場なら自殺してる」とおっしゃったので、私も「そう思います。だからこそ収容とか逮捕されないように、日本人が声を上げて動かないと人間として恥ずかしいですね」と言うと、「できることあるなら言ってや」と嬉しい言葉かけてくださいました。この方の一言に難民さんたちの苦しい立場が凝縮されているのを感じました。宗教の話や海外に住んでいた話や身の上話にも花が咲きました。

事前に連絡のあった常連さんもお越しくださり、「お気に入りのミントティーが今日はないので、きっと梅昆布茶を頼まれるよ」と話していたら予想通り、梅昆布茶を注文されて召し上がってくださいました。

また、在日韓国人の方は子どもの時から差別を受けてきたことや、不条理な出来事が山のようにあったこと、「昔は韓国名だと弁護士などの仕事や、子どものPTAの会長にもなれなかったんですよ」といろいろ教えてくださいました。「俺らはこの人らのずっと前から無国籍で…」と色々なことを話してくださいました。外国人と共生していく暮らしということを生野区で色んなイベントなどを通してされていて、チラシも持ってきてくださいました。

去年の夏くらいからずっと来なかったという方が、「やっと来れました!」とお越しくださいました。お連れ合いがハンガリー人だという彼女は、お菓子を食べながら、入管の中の生活などを質問したり、名古屋入管で亡くなったウイシュマさんの報道について入管への怒りをぶつけておられました。

スタッフが手薄で、ひとりの難民移住者は初めて一人ですべてのドリンクやお菓子を作ったりして、私が見本をみながら一生懸命動き「コーヒーと梅昆布茶だけだったので、よかった。人がいない時に限ってお客さんが来るんですね〜、でも楽しかった、お客さん来る一番うれしい」と苦笑しながら感想を話してくれました。



3月9日(水)

午前中は工房作品のディスプレイについての相談をしながら、菜園の枯れた物を取り除き、再生土を混ぜる作業など、あらたに野菜を育てる準備をしました。そしてアツという間にお昼になりました。さあ!オープンです!!



早速、先週お越しくださった方が来訪。篤子さんに会えてテンション高め、「ビスカルドって日本人と違いまんのんか?」など、嬉しそうに話されていました。スリランカに2、3年住んでいたこともあるそうで、スリランカ人女性とも話が弾んでいました。今日は二人の難民移住者さんが、初めて会うお客様の対応をしてくれました。

4月から大学生になる、癒し系のかわいらしい方が初来訪。難民さんたちや篤子さんたちともすぐに打ち解けニコニコ笑顔でいろいろ話してくださいました。「スリランカ人女性の話がとても突き刺さった」と、帰宅後、篤子さんにメールをくださったそうです。

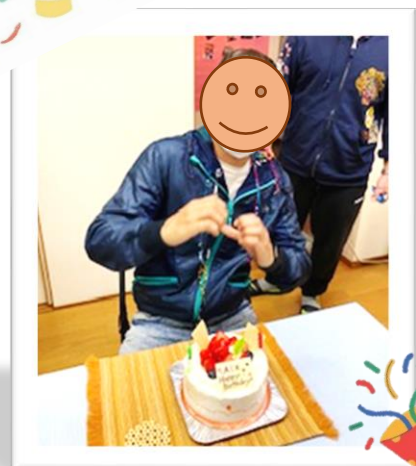
ひとりの常連さんは、最近は忙しさもあって、コーヒーを一杯飲んだだけですぐに帰られましたが、お忙しいのにホームを忘れず、少しの時間でも寄ってくださいそのお気持ちが嬉しいです。毎回寄付もしてください本当に有難いです。

国際的な事を総合的に学ぶ関西大学の学生さんも来訪。午前中に問い合わせの電話をくださり、ちょうど本日カフェを開催している事を伝えると早速予約してくださいました。しかし、折角一人で行動してくださったのにシナピスホームページの地図がわかりにくかったこともあり、シナピス事務所の方の玉造に行ってしまったというハプニングがあって、悪いことをしました。間違いとわかると自転車レンタルしてかけつけてくださいました。

いろんな話をしましたが、ウクライナの情勢のことに心痛め、平和を願う強い気持ちを分かち合う日にもなりました。



3月16日のカフェでは15日にお誕生日を迎えた難民さんがいたので、ケーキを準備し、みんなでお祝いしました。とっても喜んでくれて、さっそく本国の家族にも写真を送り、「お祝いしてくれて私たちは感動しています。本当にありがとう」とメッセージを頂きました。なかなか難民と認められず、仕事もできず、状況は辛い事ばかりですが、生まれて来てくれてありがとう。少しでも笑顔になれる時間が増えますように。



投稿欄 “ガリラヤの風”



ロシア・ウクライナでの事態に対し、
分野を超えた連携を！

ニックネーム：パウロ・ザビエル

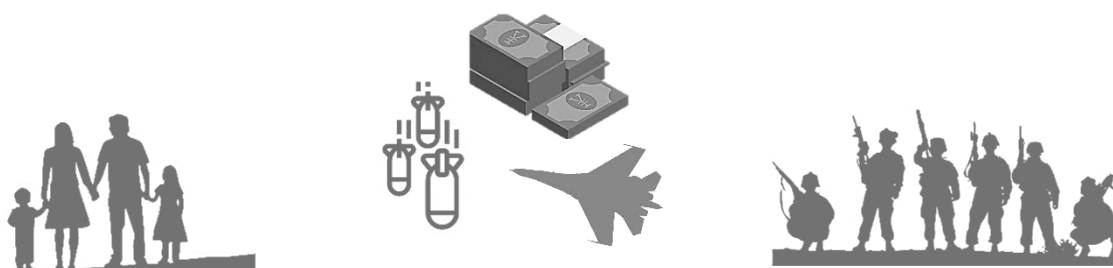
私たちはロシアによるウクライナへの軍事行動がなぜ起きているのかを理解し、どうすれば当面の危機から人々を守れるのか、今すぐできることと長期的にすべきことを整理し、分野や専門を越えて連携する必要があるのではないのでしょうか。

ロシアが軍事行動を続ける背景には、ソ連時代からのロシアの戦略環境があります。ロシアは欧州、北極、中東、さらに日本を含む極東に至る長大な国境線を有し、一方で海への出入口は限られています。そのためソ連時代を含めウクライナやカザフスタン、極東地域などの周辺部に先進兵器を配備してきました。これらの地域の防衛力がどこかで崩れると、他の方面に即時に連鎖する構造になっており、ウクライナでの事態の推移によっては、ロシア内外の脅威が次々と顕在化し、日本周辺にも影響します。またロシア自体、多くの共和国や民族で構成されていますが必ずしも一枚岩ではなく、ウクライナへの対応に失敗すると国内の統治自体が危うくなります。かつてのチェチェン紛争も、国内の共和国の独立を阻止するためでした。

軍事行動が長期化すれば死傷者や難民はさらに増え、一方ロシアに対する経済制裁で真っ先にダメージを受けるのは、ロシア内外に住む一般市民です。また世界は冷戦の頃と同じく、戦略核兵器を含む軍事抑止力が均衡しています。これらの兵器は国家が厳格に管理しているからバランスを保っているのであり、それが崩れると想像を絶する事態にもつながりかねません。だからこそ、今起きていることは全世界の安全のために包括的に考えていく必要があります。

まず明らかに緊急の課題は、難民や生活困難に陥る可能性のある人々を含む一般市民への人道的支援体制を作っていくことです。また一方で、ロシア・ウクライナの安全保障問題は一部の軍事専門家だけの問題ではありません。分野を超えた全ての専門性、国、社会で知恵を出し合う必要があります。もちろん私たち一般市民も参加して、長期的に真剣に議論していくことが必要ではないのでしょうか。

問題への回答やまとめには至りませんが、お互いに考え、話し合うきっかけとして拙稿が役に立てば幸いに存じます。



国際法違反のロシア軍によるウクライナ侵攻に抗議し、
即時撤退を求めます。

カトリック平野教会
在世フランスコ会生野兄弟会
ベネディクト大林 一郎



私は、教会で洗礼を受ける前から市民運動や平和運動について考えるようになり積極的に参加しています。

「わたしに信頼してあゆみを起す人は、わたしがしている生き方をするものだ」(ヨハネ 14 章 12 節)私の思いは、ただ福音を信じて行動を起こすだけです。福音を信じることは、イエス・キリストのなさったことを私もすること、ただそれだけのことです。イエスが選ばれた道を私も選び同じように歩むこと、イエスが立たれた視点に私も立つこと、イエスが受けられ

た苦しみを私も恐れずに受ける腹を決めること。ただそれだけのことなのです。

主はこう言われる。「正義と恵みの業を行い、搾取されている者を虐げる者の手から救え…」(エレミヤ書 22 章 3 節) どんな理由にしても戦争は絶対にアカんですよ!

ロシア軍による一方的な侵略戦争で、ウクライナの市民が無差別の大量虐殺にさらされています。挙げ句に原発を狙うとは非道の極みと憤ります。いつも戦争の犠牲者は弱者です。ロシア国内でも、戦争反対の市民の行動が 60 を超える街で行われて、その中で多数のロシア市民が逮捕勾留されている事実を忘れてはいけません。世界中に戦争反対の行動が起こり、難民を無条件で受け入れる国も出てきました。これはとても素晴らしいことです。しかし、ウクライナの惨状が報道されている間にも、世界中のメディアが報道しない、シリアやイエメン、ソマリアへの米軍、他による空爆も起こっているのです。ウクライナと同じように考えなければと思います。ミャンマー市民への弾圧、新疆ウイグル地区への弾圧、香港民主化弾圧、イラン難民… 国内でも、在日コリアンへの差別、在日ロシア人への誹謗中傷とキリがありませんが現実です…とても悲しいことです。

また「核武装を、核を共有せよ」と発言するのを見るとゾッとします。被爆国である日本が、核兵器禁止条約になぜ賛成しないのか私には全く理解できません。日本の積極的な参加を求めます。

コロナ前は月に数回デモに参加していました。シナピスの十字架の幟を立てているといろんな宗教の人が集まって来ます。3 月 9 日の戦争反対平和デモに、近所に住むだんじり仲間が、私の案内を見て駆付けてくれました。

「社会活動は教会の決められた人達だけの活動ではないんです。私達キリスト者の信仰を現す一つの方法なんです」(アバイヤ司教)

「平和をつくりだす人たちは、神からの力がある…」(マタイ 5 章 9 節)

戦争放棄の憲法を持つ国に生きる者として、ひとりのキリスト者として、私は平和を求めるすべての人々と連帯し「戦争をやめよ」の声を上げ続けます。



終わらない戦争

～横浜に眠る外国人兵士たち～



横浜に、外国人兵士たちが眠る墓地があります。ここに埋葬されているのは、主にアジア・太平洋戦争中に英連邦軍(イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、英領インド、パキスタンなど)に従軍し、日本軍の捕虜となって日本各地の戦争捕虜収容所等で亡くなった1720人余りの兵士たちです。この中には映画「戦場にかける橋」でも知られているタイの泰面鉄道敷設に従事し、その後日本の軍需工場、炭鉱、鉱山、港湾などで働かされ、捕虜収容所で亡くなった人や、私たちが住む大阪、神戸の軍需工場で亡くなった人も含まれているそうです。

その他にも、納骨堂には南方から引き揚げてきて九州の門司港到着後に亡くなったアメリカ軍やオランダ軍の兵士など 335 人の遺骨が納められ名前が壁に刻まれています。また進駐軍として駐留中に亡くなった人や、朝鮮戦争、ベトナム戦争に従軍して亡くなった人、大使館関係者なども埋葬されています。

この墓地は 1946 年、進駐軍によって接收され、造成されました。その後日本国政府とイギリス政府に売却されていましたが、1955 年に日本政府と英連邦諸国政府とが墓地に関する協定を結び、墓地として維持管理されることを条件に英連邦戦死者墓地委員会に無償で譲渡されました。

毎年 11 月には各国大使館持ち回りで行われる第一次大戦の終結を記念した慰霊祭が、8 月には戦後 50 年を機に日本の市民が中心となって和解と平和のために始めた追悼礼拝が、また 5 月には納骨堂前でアメリカンメモリアルデーが、4 月にはオーストラリアの慰霊祭が行われています。

横浜の英連邦戦死者墓地のことをシナピスに教えてくださったのは、2008 年より慰霊祭を撮影してきた写真家の塚田マサ子さん。塚田さんは墓地や慰霊祭の様子を写した写真集『追慕 刻をつなぐ』を発表し、各地で写真展も開催しています。写真集を開くと、墓石に刻まれた享年 30 才 (AGE 30) の文字や、遠い異国で亡くなった家族や同郷者を悼むために集まった人々の姿が胸に迫ります。「敵」にも「味方」にも悲しみしかもたらさない、そしていつまでも終わることのない戦争の現実です。

塚田マサ子さん写真展のお知らせ

追慕～刻をつなぐ～

横浜英連邦戦死者墓地

2022 年 4 月 8 日 (金)～14 日 (木)

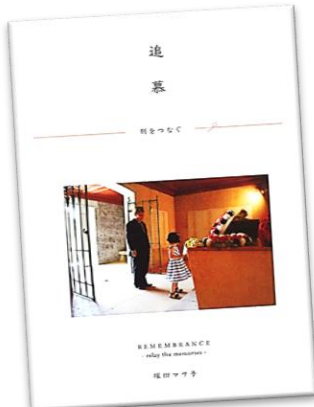
10:00～19:00 最終日 14:00 まで

富士フィルムフォトサロン 大阪

*場所など詳細は同封のハガキを

ご覧ください

*会場で販売する写真集の収益は全額
ウクライナ大使館に寄付されます。



「慰霊祭はどなたでも参加できます。この墓地について正しく知り、伝えていくことが、私たち日本人にとって最も大切なことだと思います。そして平和について、命について、もう一度振り返ってお考え頂けたら幸いです。」

写真集『追慕 刻をつなぐ』
はじめにより

|||||
COMMONWEALTH
WAR GRAVES
|||||

英連邦横浜戦死者墓地
横浜市保土ヶ谷区狩場町 238

TEL/FAX 045-731-4208

開門時間 午前 8 時～午後 5 時
(年間無休)

みんなのけいじばん

夙川教会信徒西口信幸さんから
夙川教会の祈りの取り組みの紹介です

祈りの輪が 広がっています

ミサが中止されみんなとともに祈りを捧げることができなかった
3月2日の灰の水曜日、夙川教会では教皇様の呼びかけに答え、
ウクライナのために心を合わせて、それぞれの場所で同じ時間に主の
祈り・アヴェ・マリアの祈り・栄唱を唱える取り組みがダニエル神父から
発信されました。

また、西口さん自身がウクライナのための祈り文を作成され、教区内
でウクライナへの祈りの輪が広がることを願っておられます。
今回は西口さんが考えられた祈り文の一つ「朝の祈り」を紹介します。

「朝の祈り」

ロシアによるウクライナ侵攻が始まり、
私たちの兄弟姉妹であるウクライナ市民が攻撃の嵐を受けています。
今、死の恐怖におののき、
なすすべもないウクライナの人びとに想いを馳せ、
その思いを共にして祈ります。
人間の罪の仕業であるこの戦争が一日も早く収束しますように。
今、死の危険から逃れ難民生活を強いられている人びと、
さらに戦争の恐怖を感じているすべての国の市民のために祈ります。
命の危険と不安のうちに過ごしている人びとに
一日も早く穏やかな生活が与えられ、
人間の尊厳を回復することができるよう。
攻撃に加担している国の為政者のために祈ります。
憎しみが憎しみを、暴力が暴力を生む悲しい現実を断ち切る勇気が
与えられますように。
彼らの攻撃によって、多くの市民が犠牲者となることに想いを馳せ、
ひとりひとりの命の尊さに気づき、
直ちに攻撃を止める決断ができますように。
ウクライナ侵攻に反対している世界中の善意の人びとのために祈ります。
平和への希求という志を一つにして、皆が連帯し、
愛と平和の世界を築くための
大きなうねりを作り出すことができますように。

みなさまの小教区やグループでの祈りの取り組み紹介、シナピス主催の祈りの集いの企画参加を！
シナピスニュース内で様々な祈りの取り組みを紹介し、教区内で祈りの輪が広がって行けば良いと思います。
また、『シナピス主催オンライン祈りの集い』は決まった形はありません。小教区や有志のグループで「次の祈りの集いは私たちが企画したい！」と是非名乗りを上げてください！お待ちしております。

ありがとうございます

京都暁星高等学校から支援物資を頂きました

玉手校長先生と稲葉先生がお米、パスタ、日持ちする食品や野菜、マスクなどの衛生用品を運んで来てくださいました。びっくりしたのは、抜きたての大根や新鮮な人参が段ボール箱いっぱいに入っていたことです。聞けばこれらの物資は生徒会が主体となり、呼びかけをして集めてくださったそうです。この取り組みを企画してくださった生徒会みなさんに直接お礼を言いたかったのですが、新型コロナウイルスの影響で叶わず残念でした。頂いた物資は翌日から移住者やシナピスを訪れた困っている人たちで大切に分けて頂きました。本当に有難うございました。



生徒会のみんな、しっかり受け取りました！
ありがとう～！

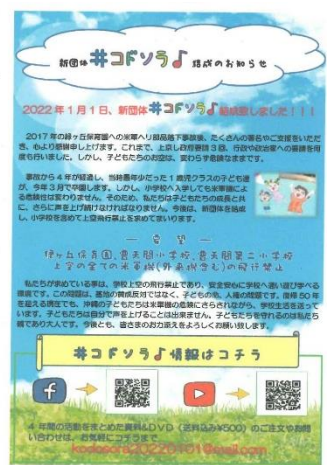


お隣の城星学園から
フードロスをなくすため食材を頂きました。

美味しいハンバーグにごぼうサラダ、ポテトの炒め物をアツアツで届けてくださりました。
いつも食材のご寄付を頂き本当に有難うございます。



おきなわで、新団体「#コドソラ♪」結成のお知らせ



「#コドソラ♪」は、沖縄県宜野湾市の緑ヶ丘保育園保護者らでつくる「チーム緑ヶ丘 1207」の新団体です。2017年12月に米軍ヘリ部品落下事故が発生した緑ヶ丘保育園と、普天間小学校、普天間第二小学校上空の全ての米軍機（外来機含む）の飛行禁止を求め、2022年1月1日に発足しました。

「#コドソラ♪」とは、「こどもの空を守る」という意味で、安全安心に学校へ通い、遊び、学ぶこどものいのちと人権を守る団体です。

活動資料&DVD（送料込み¥500）の注文や
問い合わせは kodosora20220101@gmail.com

募集中！！

アルコールジェル 無料配布中！

500ml プッシュボトル入りのアルコールジェルを無料でお分けします。
数に限りがありますのでご希望の方は
お早めにご連絡ください！



ボランティアさん！

ミシンを使ってシナピス工房の作品の縫物をしてくださる方を募集しています！自宅での作業も大歓迎です。
車の運転をしてくださる方も募集しています。
家具や大型電化製品などの運搬のお手伝いをしてくださいませんか。

ご興味がある方はご連絡をください。

豆記者・掲示板投稿

「みんなのけいじばん」では
豆記者・投稿を
募集しています。



〒540-0004
大阪市中央区玉造-24-22
TEL:06-6942-1784
FAX:06-6920-2203
Email sinapis@osaka.catholic.jp

← いずれもシナピスまで

シナピス^{工房} だより

御復活おめでとうございます。

ボールやイースターグッズを多くの方に届けることが出来ました。移住者支援にご協力をくださり、ありがとうございました。

コロナ禍で洗礼式や初聖体の日取りを思うように決められないと聞いています。シナピス工房では常時ボールやロザリオなどを手作りしています。ご入用の際はいつでもお気軽にご連絡ください。

さて、シナピス工房では5月8日(日)の母の日に向けて新しい作品を作りました。コロナ禍で会えなかったり、普段は家族と話す時間が取れない方も多いと思います。

この機会に移住者が手作りしたカーネーションカードで思いを伝えてみるのはいかがでしょうか。メッセージカードと一緒に贈るプレゼントも準備しました。

水仕事をするとときに便利なリバーシブルミニリストカバー、鍋つかみ、黄麻と呼ばれる麻の一種ジュートで編まれた食器洗いたわし。

詳しくはカタログをご覧ください。

リボンがついた表紙を開けると
赤とピンクのカーネーションが飛び出します！



カーネーションカード ¥350(1枚)

リバーシブル ♪



ミニリバーシブルリストカバー ¥700(2枚1組)



ジュートたわし ¥500(2つ)

取手にフィットして
握みやすいんです (^^♪



鍋つかみ ¥500(2つ)





～平和を求めて～
希望の鳩のチャーム



各 1 つ ¥500

※寄付金は、世界の国から様々な理由で避難を余儀なくされた難民移住者のために使われます。

世界中でいのちが危険にさらされて、心を痛めています。

ミャンマーの軍事クーデター、アフガニスタンの政権崩壊、ロシアのウクライナへの軍事侵攻、自然災害、疫病、貧困、上げればきりがなく不安な出来事が身近に溢れています。

困難に直面している方々のいのちと暮らしが守られるように、そして私たちが決して平和を求める気持ちを失わないようにとの祈りと願いを込め、希望の鳩のチャームを作りました。バックやポーチ、服など日々使うものに付けて、一日のうちひとときでも世界で起きていることを思い、少しでも多くの方と一緒に平和へ向けて出来ることを実行するきっかけになればと願っています。

お問い合わせ・注文は

カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピス

〒540-0004

大阪市中央区玉造 2-24-22

TEL: 06-6942-1784 FAX: 06-6920-2203

Email: sinapis@osaka.catholic.jp



<お詫びと訂正>

2021年9月号掲載の「障がい者委員会より」の吉川康夫さん執筆記事「当たり前のことを当たり前」で記載した顔のアイコンを吉川さんに未確認のまま、別のマークに差し替えてしていました。誠に申し訳ございませんでした。ここにお詫びし訂正いたします。

欧米の人は口で表情を読み取るそうです。

(誤)× (へ) 嬉しい、 (-へ-) 不機嫌です。



(正)○ (笑顔) 嬉しい、 (悲しい顔) 不機嫌です。

活動へのご支援ご協力

よろしくお願いいたします。

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

難民移住移動者支援もよろしくお願いいたします。

支援物資提供のお願い

缶詰、ハラル食品、レトルト食品

インスタントラーメン、調味料

テレホンカード、不織布マスク

体温計

お電話をお待ちしています!!

☎06-6942-1784

HPはこちらから▶

<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

あとがき

ウクライナ民話の「てぶくろ」。小さき動物たちが次々にやってきて、譲り合いながら小さくてぶくろのおうちで生活をはじめます。ロシアのウクライナ侵攻でふとこの話を思い出して色々想像しました。武器のような危なっかしいものを持ちこもうとするものはいなかったのだろうか。大きく冷たい武器はなんてったって場所をとります。置き場所もないだろうからきつと喧嘩も始まるでしょう。その分、誰かを入れてあげることができるでしょう。誰も、傷つけず、だれも排除せず、「いっしょにいてうれしい、よかった」互いに大切な存在だから「ありがとう」と言えたらどんないいでしょう。世界はウクライナ難民を受け入れるために門戸を広げています。ミャンマー、アフガニスタンだって同じはずですが。そこにいたくても逃げざるを得ない人びとの行き場はどこにあるのでしょうか。難民と認めてもらえないまま何十年も放置されている仮放免者は生きていながら、眠らされています。沖縄の基地から轟音を響かせ毎日頭上を巡回する戦闘機がいつか人のいのちを奪うため飛び立つかもしれないと沖縄の人たちは。原発が攻撃される映像をみて、福島の人たちは。防空壕に逃げる人々の映像をみて戦争体験者は。それぞれどのような思いでこの状況を見、聞いているのか。(H)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動

- ・教皇メッセージ、司教団メッセージ等
社会活動の指針の伝達
- ・読者と教会内外の社会活動をつなぐ
機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪教区・社会活動委員会との連携

◆学習会研修会の企画

◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、
カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪府中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪大司教区事務局内



公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約 1000m

地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m

JR 玉造駅より 約 1000m

地下鉄鶴見線緑地線玉造 1 番出口より 約 800m

車でのお越しの場合

阪神高速 13 号東大阪線法門坂出口

法門坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス



忘れない＊あきらめないカレンダー

どんな状況下でも、忘れず、あきらめず、希望をもって歩む皆さまに、情報を配信します。



2022年 4月 の 案 内

★印 カトリック関係

2022年 祈禱の信徒 祈りの意向 4月

教皇の意向：医療従事者

病者や高齢者のために、とりわけ最貧国で奉仕する医療従事者が、政府や地方自治体から適切な支援を受けることができますように。

日本の教会の意向：家庭

すべての家庭の平安のために祈ります。

とりわけ、悩みを抱え、きずなが揺らいでいる夫婦が互いに歩み寄り、和解への糸口を見出すことができますように。

2	土	世界自閉症啓発デー ●森友事件は未解決! 森友学園問題追及6年目 怒りの集会・デモ ■場所:豊中市立文化芸術センター 1F多目的室 14時 集会開始 16時15分「瑞穂の國記念小学院」校舎前までデモ 講演:木村真さん(豊中市議会議員) 資料代:500円 主催:「森友学園」疑獄を許すな!実行委員会 連絡先:fax06-6304-8431 ●市民デモHYOGO学習会「沖縄」シリーズ第3回「沖縄に本当に基地が必要か」■場所:神戸市勤労会館4階405号室 14時半～17時 講師:伊東武是さん(元裁判官) 清水早子さん(「ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会」事務局長) ①会場参加(定員25名) ②Zoom参加(定員なし)いずれも事前申込制 参加費:会場参加500円(若者・困窮者無料)、Zoom参加無料 主催:市民デモHYOGO 連絡先:TEL080-5631-7699(西信夫) ✉oniyamma24@outlook.jp
4	月	地雷に関する啓発および地雷除去支援のための国際デー
5	火	良心の国際デー
6		開発と平和のためのスポーツの国際デー ●戦争あかん!ロックアクション 御堂筋デモ ■場所:新阿波座公園 18時半 集会 19時10分 デモ出発 主催:戦争あかん!ロックアクション 連絡先:TEL090-5063-0073 (平日は16時半以降、土日は午後可) ブログ「戦争あかん!ロックアクション」で検索 Facebookページ「戦争法、秘密法廃止!集会・デモ情報」
7	木	(1994年の)ルワンダにおけるジェノサイドを考える国際デー 世界保健デー [WHO]
8	金	●春季学習会 ウクライナ攻撃と朝鮮半島 韓国大統領選挙結果と今後の課題 ■場所:エルおおさか606号室 18時半 講師:金光男さん(在日韓国研究所・大阪～韓国情報交流会共同代表) 資料代:500円 共催:ヨンデネット大阪、大阪～韓国情報交流会 連絡先:✉yondenetosaka@gmail.com ●塚田マサ子さん写真展 追慕～刻をつなぐ～横浜英連邦戦死者墓地 ■場所:富士フィルムフォトサロン大阪 2022年4月8日(金)～14日(木)10時～19時 最終日14時まで 連絡先:✉hamamirai72@icloud.com
10	日	受難の主日 ●関西新空港反対!泉州現地集会 ■場所:泉南市岡田浦浜(岡田浦漁協となり) 13時15分～ 主催:泉州沖に空港をつくらせない住民連絡会 ●ドキュメンタリーを視て語るつどい ■場所:大阪市立北区民センター 18時 上映:「広がる中国化一体一路の光と影」(NHKスペシャル)「ニューヨークLGBT運動の夜明け」(BS世界のドキュメンタリー) 「私たちは宗教2世見過ごされてきた苦悩」(かんさい熱視線) 会場費:300円 主催:映像で現代を語る会 問合せ:TEL090-5151-9763(中森)
14	木	聖木曜日 シャーガス病の世界デー
15	金	聖金曜日
16	土	聖土曜日
17	日	復活の主日 ●とめよう!戦争への道 めざそう!アジアの平和 2022春 関西のつどい ■場所:エルおおさか2Fエルシアター 13時半開場 13時50分～15時35分 閉会後デモ予定 講演:矢野宏さん(新聞うずみ火・代表)「維新は、憲法の何を変えようとしているのか」 水島朝穂さん(早稲田大学法学学術院教授)「なぜ憲法を変えてはならないのか」 資料代:500円(中高生・介助者無料)手話通訳あり 主催:とめよう!戦争への道 めざそう!アジアの平和 2022春 関西のつどい実行委員会 (大阪教組/大阪平和人権センター/しないさせない戦争協力関西ネットワーク/戦争をさせない1000人委員会・大阪)
18	月	●関電原発不正マナー 悪徳6被告vs関電&株主原告訴訟 ■場所:大阪地裁前 13時 ミニ集会 14時 第二階口頭弁論開廷 終了後 記者会見&報告集会(京阪淀屋橋ビル AP大阪淀屋橋会議室) 主催:関電株主代表訴訟原告団 連絡先:TEL080-5342-4819(滝沢) 関電の原発マナー不正還流を告発する会 連絡先:TEL0776-25-7784(原発反対福井県民会議)
21	木	創造性とイノベーションの世界デー
22	金	国際マザーアース・デー

23	土	世界図書・著作権デー 女兒とICTの国際デー ●「憲法9条の会・関西」学習会 身近に迫る改憲の危険性 ■場所:難波市民学習センター 第1研修室(OCATビル4階) 13時半開場 14時開会 講演:島本慈子さん(ノンフィクションライター) 参加費:800円(学生500円) 主催:「憲法9条の会・関西」 連絡先:✉kenpo9kansai@gmail.com HP:https://9jo-kansaijimodofree.com ●チェルノブイリ原発事故36周年の集い ～海に流すな!放射能汚染水～ ■場所:大阪市立総合生涯学習センター第1研修室 13時半～16時半 講演:川島 秀一さん(日本民俗学会会長)「海と離れずに生きること～福島県のいま」 主催:チェルノブイリ・ヒパクシャ救援関西 問合せ:TEL072-253-4644 ✉chernobyl-kansai@titan.ocn.ne.jp ●天皇制を考える市民講座 「豊かな海づくり」の欺瞞 一天皇行事でふりまく「海づくり」を問う ■場所:神戸学生青年センター 13時半 講師:湯浅一郎さん(環瀬戸内海会議 共同代表) 共催:はんでんの会(兵庫反天皇制連続講座) 神戸学生青年センター ●世界の農村指導者と「共に生きるために」を目指して～アジア学院50年の働き～ ■場所:関西セミナーハウス(10人)またはリモート参加(Zoom) 13時半～15時50分 講演:荒川朋子さん(学校法人アジア学院校長) 参加費:来館・リモートともに1500円(学生500円) 4月20日までに事前申し込み(Fax、電話、電子メール、WEBフォームから) 主催:公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー関西セミナーハウス活動センター 連絡先:TEL075-711-2117 fax075-701-5256 ✉office@academy-kansai.org
		マルチラテラリズムと平和のための外交の国際デー ●光の領地×劇団EN連続公演から ■場所:スペースふうら 13時半開場 14時開演 南澤あつ子一人芝居「市長公室の木村さんが」:戦時性暴力を問う 終了後 ゲストトーク:金民樹さん 要予約チケット2000円 申込✉2022fuura@gmail.com 主催:関西上演実行委員会 ●ドキュメンタリー映画 私はチョンソンサラムです 大阪上映会 ■場所:東成区民センター大ホール 第1回上映会 10時20分～12時 トークショー 12時20分～14時 発言:李哲さん 李香代さん 金隆司さん 第2回上映会 14時20分～16時 料金:前売り券1,000円 当日券1,500円 問合せ・予約:「私はチョンソンサラムです」大阪実行委員会 TEL06-6711-6377 ✉osaka@korea-htr.org
		25 月 世界マラリアデー [WHO]
		26 火 国際チェルノブイリ災害想起デー
27	金	
28	土	職場での安全と健康のための世界デー
29	日	●～原子力災害について考える～ 「カタストロフィ」上映会 & 監督からのコメント ■場所:ウイズあかし会議室803 14時「カタストロフィ」上映 15時監督 池島英紀子氏による解説・Q & A 一般参加費:500円(カラーリーフレット付き) 学生無料 定員:30名 主催:脱原発明星・たこの会 TEL090-9542-9005(ヤマネ) ✉akashi.takonokai@gmail.com ●第2回ヨンニッパ音楽祭 ～基地も安保もいりまへん…原発も!～ ■場所:Kansai ON AIR L7 13時開場 13時半～18時半 出演:中川五郎さん 竹象さん アカリトバリさん パギやんさん おーまきまきさん 裏猫キャバレーさん 天真爛漫☆さん カオリンズさん ヤギリーズ(李知承さん 青柳林さん すだっちさん)ダンシング義隆&フレンズさん おもちゃ楽団さん 参加協力券 ¥1,000 賛同金・カンパ大歓迎! 主催:「ヨンニッパ音楽祭」実行委員会 TEL090-8146-1929 fax06-6731-1699
		●「アジアから問われる日本の戦争」展2022 ■場所:エル・おおさか 9,6,5階 10時～19時 入場無料 映画上映会 5階視聴覚室 12時～東アジアの和解と核なき世界への道 14時～にがい涙の大地から 18時～靖国の檻 13時～15時 504号室 ワークショップ 家族写真から見える戦争 主催:「アジアから問われる日本の戦争」展2022実行委員会 TEL080-3822-0404 ✉regain_peace@yahoo.co.jp ●ウトロ平和祈念館オープン企画 UTORO WEEK ウトロウィーク OPEN 13時 詳細は https://utoro.jp まで 問合せ:一般財団法人 ウトロ民間基金財団 TEL0774-41-7248 fax0774-41-7276
30	月	●「アジアから問われる日本の戦争」展2022 ■場所:エル・おおさか 9,6,5階 10時～19時 入場無料 映画上映会 5階視聴覚室 12時～東アジアの和解と核なき世界への道 14時～望郷の星 18時～狂夏の烙印 14時～17時 5階研修室2 講演会&ワークショップ 「親たちの戦争体験を受け継ぎ、私たちの世代でできることは？」 黒井秋夫(PTSDの復員日本兵と暮らした家族が語り合う会) 主催:「アジアから問われる日本の戦争」展2022実行委員会 TEL080-3822-0404 ✉regain_peace@yahoo.co.jp
1	日	
3	火	●輝け憲法! おおさか総がかり集会 ■場所:扇町公園 14時～ ミニ講演:湯浅一郎さん(ピースデポ代表) 音楽:MIG SUN LIFE 閉会后、各団体ごとに分散して街頭宣伝 主催:おおさか総がかり行動実行委員会 連絡先:大阪憲法会議・共同センター TEL06-6352-2923 戦争をさせない1000人委員会・大阪 TEL06-6351-0793 しないさせない戦争協力関西ネットワーク TEL06-6364-0123 HP: http://so-gakari-osaka.net
5	木	●芸人9条の会 ■場所:東成区民センター大ホール 13時開場 第1部:14時～15時20分 第2部:15時40分～17時 笑福亭竹林さん 桂福点さん オオタスセリさん パギやんさん 松元ヒロさん おしどりさん 桂文福さん ナオユキさん 露の信治さん 古今亭菊千代さん ちんどん通信社さん 木戸銭:2000円(前売り) 2500円(当日) 1000円(障がい者、高校生以下) 幼児無料 全席自由席 主催:芸人9条の会 後援:九条の会・おおさか TEL090-8146-1929 ✉tamazo@fanto.org